

平成24年度 国語総合のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	国語総合	単位数	4	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	第一学習社 新編国語総合				
副教材等	新装版 ことばを広げる 新漢字ノート				

2 学習目標

国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、様々な作品に触れることによってものの見方、感じ方、考え方を広げ心情を豊かにする。また言語感覚を磨き、言語文化や日本の現代文化、古典文化などに幅広く触れさせ、国語に関する関心を深め、国語や文芸作品を尊重し敬愛し、日本人であることの誇りを持てるようにすると共に、自立した社会人として通用する国語常識や普遍的なものの見方や考え方を育成する。

3 学習方法

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② プリントを用いて漢字の練習を行う。
- ③ ワークシートを利用し読解を深める。

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	新しい出会い 「一日ですっかり変わってしまうこともある」	1年間の学習計画を理解する。 随筆の読み方の習得。自己を見つめ確立していく力の養成。	正しく内容が理解できたか。 漢字練習プリント、ワークシート及びノートの提出。
	5	古文入門 「児のそら寝」	①歴史的仮名遣いを理解する。 ②話のあらすじを理解する。 ③四段活用の理解。	歴史的仮名遣いを理解し、話のあらすじを理解できたか。 四段活用を理解できたか。
	6		④品詞 (動詞・名詞・形容詞) の理解。	品詞の違いを理解できたか。
	7	小説を読む 「散髪」	短編小説のおもしろさを味わい、その鑑賞の仕方を学ぶ。 登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。	正しく内容が理解できたか。 漢字練習プリント、ワークシート及びノートの提出。
第2学期	9	漢文入門 「訓読に親しむ1」 「訓読に親しむ2」	漢文を理解する上での基本的な事柄について、その原則を知る。漢文の訓読になれる。	漢文の訓読ができるか。 返り点の理解ができたか。 ワークシート及びノートの提出。
	10	詩の楽しみ 「道程」「小景異情」「六月」 小説を読む 「指」	近代詩・現代詩に親しむ。 詩を読み味わう方法を学ぶ。 登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。	日本における詩についての理解 詩形の理解。 漢字練習プリント、ワークシート及びノートの提出。
	11	生活の中の表現 「日本語のこころ」	論理的な文章の展開・構成を理解しながら、筆者の主張を的確に捉える。	論理的な文章の構成を理解できたか。漢字練習プリント、ワークシート及びノートの提出。
	12	物語を楽しむ 「かぐや姫のおひたち」	古語辞典を利用し口語訳ができるようにする。 下二段活用・上二段活用の理解。	重要古語を辞書で調べられたか。内容が理解できたか。 下二段活用・上二段活用が理解できたか。

第 3 学 期	1	小説を読む（二） 「羅生門」	短編小説の特色を理解し、人物の性格・心理・行動を読み取る。 小説という虚構をとおして、作者が伝えようとしたことを考える。	登場人物の性格・心理・行動を読み取ることができたか。 全文を読み、展開が理解できたか。 漢字練習プリント、ワークシート及びノートの提出。
	2	故事成語 「五十歩百歩」	故事成語を通じて、古代中国人の考え方を知り現代との共通点を見いだす。	故事成語の意味が理解できたか。返り点の理解・書き下し文ができたか。ワークシート及びノート提出。
	3	短歌の世界 「大切な言葉」	近現代短歌に親しみ、情景や心情を把握する。 短歌の表現方法を理解し、より深く味わう態度を身につける。	短歌に親しみ、その情景や心情を理解することができたか。 表現方法を理解できたか。 漢字練習プリント、ワークシート及びノート提出。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は三つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 授業・教材に対する「関心・意欲・態度」	教科書・ノートをきちんと用意し、ワークシート、漢字練習等のプリントを提出したか。
2 読解力・表現力	内容を理解し、それを文章によって表現できたか。
3 漢字力・語彙力	漢字テストで合格できたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

学習状況の観察・提出物・ノート・定期考査によって評価します。

平成24年度 現代社会の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	現代社会	単位数	3	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	高等学校 改訂版 新現代社会（第一学習社）				
副教材等	ニュービジョン 現社（浜島書店）				

2 学習目標

人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて，広い視野に立って，現代の社会と人間についての理解を深めさせ，現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としてのあり方生き方について考える力を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3 学習方法

- ①教科書の写真やグラフを参考に基本事項の確認を行う。
- ②プリントを利用し，重要事項への関心を高める。
- ③具体例を増やし，興味関心を促す。
- ④教科書などの事象についての質問などに，身近な事から考えて答える。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	第1編 現代に生きる私たちの課題 1 環境と私たちの生活	現代社会についての1年間の学習内容を理解する。 地球全体におよぶ環境問題を知り，原因と対策について考え，地球の一員としてなすべき事を理解する。	1年間で学ぶ現代社会の課題について正しく内容が把握できたか。 人間の生活が，地球環境にもたらす課題と，その対策について理解できたか。
	5	2 資源エネルギー問題と私たちの生活	エネルギーの重要性和化石燃料の枯渇問題を知るとともに原子力発電と新エネルギーの開発について学ぶ。 循環型社会を理解する。	人間生活に不可欠のエネルギー問題について理解できたか。 限りある資源の有効利用である循環型社会のについて正しく理解できたか。
	6	第2編 現代の社会と人間としてのあり方生き方 1 現代社会の特質と社会生活の変化	日本の少子高齢化社会の状況を理解する。 国際化社会のなかで，異文化理解と他国を尊重する態度を学ぶ。	少子高齢化の現状と課題について把握できたか。 異文化の理解がなぜ必要かを理解できたか。
	7	2 現代に生きる青年	青年期について学び，自分を見つめ 直す機会にできるようにする。	青年期の特質を理解できたか。自分について考えることができたか。
第2学期	9	3 現代の経済社会と私たちの生活	産業構造と企業，政府の経済的役割と金融機関の働き，労働問題など経済のさまざまな仕組みについて学ぶ。	技術革新による産業構造の変化と企業の活動の社会的責任について理解できたか。 政府の役割と金融の仕組みの重要性を理解できたか。また，労働についての諸問題を把握できたか。
	11	4 国際経済の動向と日本の役割	資本主義経済体制について理解する。国際分業と貿易についての諸問題を学ぶ。経済の南北問題の現状を学び，国際協力の重要性を理解する。	資本主義体制について理解できたか。現代経済のグローバル化と南北問題の存在，解決のための国際協力の重要性を理解できたか。

学 期	12	5 現代の民主政治と私たちの生活	国家とは何か。法による人権の保障を知る。 日本国憲法の基本原理を学ぶとともに、憲法9条にかかる諸問題について考える。 人権について学ぶ。 国会の権限と内閣の権限および民主化について学ぶ。地方自治の課題について考え、選挙制度のしくみを理解する。	国家と法の支配の関係を理解できたか。日本国憲法と明治憲法の違いを理解できたか。憲法9条の問題点について考えることができたか。 人権について理解できたか。また、国と地方の立法と行政について理解できたか。
第 3 学 期	1			
	2	6 国際政治の動向と日本の役割	第二次大戦後の国際社会について学ぶ。 国境と領土問題、特に日本の領土問題について理解する。 地域紛争と国連の役割を学ぶ。国際平和と日本の外交について考える。	冷戦とその後の国際情勢を理解できたか。 世界の国境問題と日本の国境問題について理解できたか。 地域紛争を解決するためにどのような努力がなされているかを理解できたか。
	3	7 民主社会の倫理	人間の尊厳と生命の尊重について考える。自由と平等について学ぶ。	生命の尊重について考えることができたか。自由には社会的責任が伴うことを理解できたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 社会的事象への「関心・意欲・態度」	現代のさまざまな事象に対して関心を持ち、意欲的に探求しようとする態度を身につけているか。
2 社会的な「思考・判断」	現代のさまざまな事象やしくみについて問題点を調べ、論理的に考えて判断することができるか。
3 資料活用の技能・表現	資料のなかからの確な情報を取り出し、発表できる表現力を身につけているか。
4 社会的事象についての知識・理解	現代の社会における基本的なしくみや規則、社会的事象の問題点と解決方法などの知識を身につけ、理解することができたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	◎	学習活動への参加の態度
提出物	◎	◎	◎	◎	プリントなど
ノート	◎	○	○	○	年間5回提出
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成24年度 数学Ⅰのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学Ⅰ	単位数	4	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	東京書籍 新数学Ⅰ				
副教材等	未定				

2 学習目標

数学とは、決まったルールに則って発展し世界が広がる学問です。まず皆さんにはルールを覚えてもらうこと、それに基づいて計算していくことが必要になります。
 具体的には、展開や因数分解の仕方、方程式と不等式を解き方、2次関数のグラフのかき方、三角比を利用して辺の長さ、角の大きさ、面積の求め方などを身につけることです。
 数学Ⅰを通して、数学的な見方や考え方のよさを改めて感じてみましょう。

3 学習方法

大切にして欲しいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。
 ぜひ、苦労して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (单元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 数と式 1節 整式	- 文字を使った式 - 整式 - 整式の加法・減法 - 整式の乗法 - 乗法公式 - 因数分解	いろいろな数量を文字を使った式で表すことができる。同類項をまとめ、整式の加法や減法ができる。指数法則と乗法公式を理解し、整式の乗法ができる。基本的な因数分解ができる。公式を用いた因数分解ができる。
	2節 実数	- 数の分類 - 根号を含む式の計算	平方根の意味を再確認し、その性質を理解する。平方根をふくむ式の計算ができるようにする。分母の有理化ができるようにする。実数の分類を理解できる。
第2学期	3節 方程式と不等式	1次方程式 - 不等式 - 不等式の性質 - 不等式の解き方 - 不等式の利用 2次方程式とその解き方	方程式の意味や解の意味について理解できる。不等号や不等式の意味について理解する。不等号の向きについての性質を理解できる。不等式の性質を利用して、1次不等式が解ける。因数分解を用いて、2次方程式が解ける。平方根の考え方を用いて、2次方程式が解ける。解の公式を利用して、2次方程式が解ける。
	3章 2次関数 1節 2次関数とグラフ	- 関数 2次関数とそのグラフ	座標を表すことができる。$y=ax^2$のグラフの特徴をとらえ、そのグラフがかけ。 $y=a(x-p)^2+q$のグラフの特徴をとらえ、$y=ax^2$のグラフを平行移動して、$y=a(x-p)^2+q$のグラフがかけ。平方完成を利用し、$y=ax^2+bx+c$のグラフがかけ。
第3学期	2. 2次関数の値の変化	2次関数の最大値・最小値 2次関数のグラフと2次方程式 2次関数のグラフと2次不等式	2次関数の最大値・最小値をグラフを利用して求めることができる。2次方程式の解のグラフ上での意味を理解できる。2次関数のグラフを利用して、2次不等式が解ける。

5 学習評価

評価については、次の4つのポイントを考慮します。

- ・1年間に5回行われる定期考査での得点
- ・毎回の授業時間の取り組み姿勢
- ・提出物の状況
- ・出欠席の状況

授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成 26 年度 生物基礎の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	生物基礎	単位数	2	履修学年・区分	第 1 学年
使用する教科書	高校生物基礎（実教出版）				
副教材等	アクセスノート生物基礎（実教出版）				

2 学習目標

すべての生物は，細胞と呼ばれるものから作られています。生物基礎の授業では，まずは細胞の特徴や働きを学び，そこから生物の設計図である遺伝子に思いを馳せます。さらには生物の内的環境と外的環境にも目を向け，生物が日常的に行っている様々な反応について広く学習します。

生物基礎では生物や生物現象についての観察，実験を行い，自然に対する関心や探究心を深め，生物に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。

3 学習方法

- ① 生物に関する内容を扱ったテレビ番組や新聞記事が身近にたくさんあります。積極的に触れてみましょう。
- ② ノートには，板書を写すだけでなく，口頭での説明もきちんと記入しましょう。復習時にまとめれば，あなただけの参考書になります。
- ③ 授業を受けていて解らないことなどがあった場合には，そのままにせず遠慮なく質問しましょう。
- ④ 実験・観察は重要です。目的や方法をきちんと理解し，実験に臨みましょう。また，レポートには「結果」の他に「考察」を必ず書きましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	1 章 生物の特徴 1 節 生物の共通性と多様性	1 いろいろな生物 2 生物の共通性の由来 3 細胞の特徴	・生物の共通性に触れ，細胞の構造や働きについて理解する。 ・原核生物といった細胞の違いによる生物の分類を理解する。
	2 節 細胞とエネルギー	1 代謝とエネルギー 2 酵素 3 呼吸 4 光合成 5 ミトコンドリアと葉緑体の起源	・代謝には同化と異化があることを理解する。 ・酵素の働きと性質を理解する。 ・代謝の代表的な反応である呼吸と光合成についてそのしくみを理解する。 ・細胞小器官の起源を通して，細胞内共生説を理解する。

	2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報の分配	1 ゲノムと遺伝子 2 DNA研究の歴史 3 DNAの構造 1 細胞分裂とDNA	・DNAが遺伝子の本体であることを証明した実験について学ぶ。 ・DNAの二重らせん構造について視覚的にも理解する。 ・体細胞分裂とDNAとの量的関係を理解する。
第2学期	3節 遺伝情報とタンパク質の合成 3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫	1 遺伝子とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 遺伝子の発現 1 体液と体内環境 2 恒常性にかかわるしくみ 1 自律神経系による調節 2 ホルモンによる調節 3 自律神経系とホルモンによる調節 1 生体防御 2 免疫のしくみ	・タンパク質が生体に多く含まれ、重要な役割を担っていることを理解する。 ・タンパク質の合成過程を、DNAと関連づけて理解する。 ・恒常性を知り、体液の循環について理解する。 ・恒常性に関して腎臓や肝臓の果たしている役割を理解する。 ・自律神経系の働きを理解する。 ・種々のホルモンとそれぞれの働き、およびその働きの結果である血糖量調節や体温調節のしくみを詳しく理解する。 ・生体防御法である免疫の種類とそれぞれのしくみについて深く理解する。 ・アレルギーや免疫不全があることを把握する。
第3学期	4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	1 植物の生活と環境 2 植生とその構造 3 遷移と極相	・植物と光や水との関係を、光合成や蒸散といった観点から理解する。 ・森林の構造や植物の種類を通して植生を理解する。 ・長い時間をかけての植生の移り変わりを、周囲の環境の変化と併せて理解する。

2 節 気候とバイオーム	1 バイオームの分布	・気温・降水量とバイオームとを関連づけて理解する。
3 節 生態系と物質循環	1 生態系 2 エネルギーの流れと物質循環 3 生態系のバランス	・様々な生態系とそのバランスについて、物質循環やエネルギーの流れを通して理解する。
4 節 生態系のバランスと保全	1 人間生活と生態系 2 生態系の保全	人間生活が生態系に与える悪影響と、それへの対応策を深く学ぶ。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 「関心・意欲・態度」	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
2 「思考・判断・表現」	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出された考えを的確に表現している。
3 「観察・実験の技能」	生物や生物現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
4 「知識・理解」	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	◎	実験レポートや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年 5 回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成24年度 地学基礎 のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	地学基礎	単位数	1	履修学年・区分	1 学年
使用する教科書	地学基礎 (東京書籍)				
副教材等					

2 学習目標

私たちの住む地球は太陽系に属する惑星です。そしてその地球は今のところ生命の宿る唯一の星です。その事実を踏まえたとき, 自分の住む場所について深く知っておくことは決して無駄なことではないことが分かります。

地学基礎では, 地球と太陽系のその他の惑星との比較や, 地球の成り立ちおよび地球の地層や地質について学び, 地学分野に関する観察, 実験などを通して, 地球に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。

3 学習方法

- ① TV番組や新聞記事にも地学の内容を扱ったものは数多く見られます。興味ある分野は自分から積極的に触れていきましょう。
- ② ノートはただ板書を写すだけでなく, 自分に分かりやすいようにまとめましょう。
- ③ 授業の復習を問題集やプリントを使用して適宜行い, 知識の定着を図りましょう。
- ④ 実験・観察はその目的や方法をきちんと理解した上で臨みましょう。また, 実験結果から考察を導くことも忘れないように。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1. 私たちの宇宙の進化 1章 宇宙の構造と進化	ビッグバンと宇宙の進化 宇宙原理と宇宙の膨張 天体の誕生 銀河と天の川銀河 銀河の集団と大規模構造	・宇宙の成り立ちと現在までの移り変わりを理解する。 ・天の川銀河の構造や宇宙での位置について理解する。 ・その他の銀河の存在について理解する。
第2学期	2章 太陽と惑星	太陽系の惑星と進化 惑星・小惑星・彗星の起源 太陽の進化とその最後 太陽の特徴 太陽の活動と地球への影響 地球型惑星と木星型惑星 太陽系の広がりとは地球	・太陽系の構造を理解する。 ・太陽の構造およびその行く末について理解する。 ・地球型惑星と木星型惑星の特徴を説明できる。 ・地球だけが水と生命のある星になった理由を理解する。

	2. 私たちの変遷と生物の進化 1章 生命の変遷	原始地球の誕生 先カンブリア時代 古生代 中生代 新生代	・地球誕生当初の様子について理解する。 ・地質時代と生物の変遷との関係を把握する。 ・化石を通して生物の進化の道筋を理解する。
第3学期	2章 地層や岩石の観察	地層の構成 地層と古環境 地質構造	・様々な地層と堆積物について理解する。 ・化石から古環境を探る方法を学ぶ。 ・断層・褶曲・不整合を理解する。

5 学習評価

(1) 評価の観点および内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結びついた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 お よ び 内 容	
1 自然の事物・現象に関する「関心・意欲・態度」	地学の現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
2 科学的な「思考・判断」	地学の現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する。
3 「観察・実験の技能・表現」	地学の現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付け、観察、実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
4 自然の事物・現象に対する「知識・理解」	観察、実験などを通して生物や地学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	○	プリントや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年5回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成 24 年度 保健のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	保健	単位数	1	履修学年・区分	第 1 学年
使用する教科書	最新保健体育 (大修館書店出版)				
副教材等	最新保健ノート (大修館書店出版)				

2 学習目標

新たな健康問題の登場とともに、健康のとらえ方や健康を守る活動も変化してきています。自分たちだけではなく、すべての人々が健康の保持増進を実現するために必要なことです。 保健では、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てることを目標とします。

3 学習方法

社会の大きな変化の中で、健康や安全の問題は多様化しています。①新聞や雑誌、テレビ番組やニュースで、保健(健康問題も含む)の内容を扱ったものは意識的に見るように心がけましょう。②健康問題とその対策について学びます。③実習を通して実際の生活の中で使うことがあるかも知れないことをしっかり身に付けましょう。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	現代社会と健康 1 健康の考え方 2 健康の成り立ちと取り組み 3 私たちの健康のすがた 4 生活習慣病の予防 5 食事と健康 6 運動・休養と健康 7 喫煙と健康	- WHO - ヘルスプロモーション - 平均寿命 - 予防法 5 大栄養素 - 有酸素運動 - 受動喫煙	- WHO 憲章を理解することができたか。 - 健康にはどのような要因がかかわっているのかを説明できるようになったか。 - 早期発見、早期治療と今後の生活習慣が重要であることを理解できたか。 - 自分の食生活を振り返ることができたか。 - 運動及び休養が健康の保持増進にとって重要であることが理解できたか。 - 健康問題が、個人社会レベルで説明できたか。
第 2 学期	8 飲酒と健康 9 薬物乱用と健康 10 健康と意志決定・行動選択 11 感染症の予防 12 性感染症・エイズ予防 13 医薬品と健康 14 欲求と適応機制 15 心身の相関とストレス 16. 心の健康のために	- 飲酒の問題点 - 薬物乱用 - 意志決定、行動選択 - 新しい感染症 - エイズ - 自然治癒力 - さまざまな適応機制 - 心身相関 - 自己実現	- 薬物の誘惑に、“絶対に NO！”と言える自分が大切であることが理解できたか。 - 性感染症、エイズについて個人が具体的な対策を考えられるようになったか。 - 医薬品の本来の役割とそのための正しい使用法を理解することができたか。 - 欲求について理解し、様々な適応機制を説明できるようになったか。
第 3 学期	17 交通事故の現状と要因 18 交通事故を防ぐために 19 応急手当の意義と応急手当 20 心肺蘇生法の原理と手順 21 心肺蘇生法のおこない方	- 事故の原因 - 安全な交通社会 - 心肺蘇生法の実習	- 怪我や熱中症の応急手当の手順や方法とその予防を理解することができたか。 - 心肺蘇生法を理解し、できるようになったか。 - 気道確保→呼吸観察→人工呼吸→胸骨圧迫→AED の正しい理解と技術・手順を身に付けることができたか。

5 学習評価

学習活動の中で、グループでの調べ学習や発表、応急手当や心肺蘇生法の実習などを取り入れていきます。それらの活動への取り組み方や技能が身に付いているかが重要です。そのことが理解されているかを確認するための定期考査(学期 1 回ずつ)も成績評価をする際の重要な資料となります。 ※テストの得点+授業への取り組み姿勢+技能習得+提出物

平成 24 年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体育	単位数	3	履修学年・区分	第 1 学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を実践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。
--

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。
--

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	集団行動 体力づくり運動 男フットサル 女ソフトバレー 水泳	①姿勢②方向変換③集合、整とん、番号、解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・ 体ほぐしの運動 ・ 体力を高める運動 ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・ 基本動作（姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減）ができたか。 ・ 持久性、スピード、筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・ 自己の目標を設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・ より長く、より速く泳げるように、自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第 2 学期	男柔道女ダンス 体力づくり運動・持久走 男テニス女卓球 選択 男バスケット、バレーボール 女ソフトボール、サッカー	男柔道①受身②投げ技③固め技 女ダンス①創作ダンス②フォークダンス③現代的なリズムダンス 体力を高める運動（2km, 4km, 駅伝） ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ 礼儀作法・技の習得ができたか。 ・ 楽しく踊ったり、発表したりできたか。 ・ 自己の目標タイムを設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・ サービス、スマッシュ、ボレーができたか。 ・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・ パス、キャッチ、ドリブル、シュートができたか。 ・ サービス、パス、レシーブ、スパイクができたか。 ・ キャッチボール、バッティング、パスができたか。
第 3 学期	男卓球女 テニス 選択 男ソフトボール、サッカー 女バレーボール、バドミントン	・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・ サービス、スマッシュ、ボレーができたか。 ・ パス、キャッチ、ドリブル、シュートができたか。 ・ キャッチボール、バッティング、パスができたか。 ・ サービス、パス、レシーブ、スパイクができたか。

5 学習評価

①「体育」の授業に積極的に参加し、向上心がみられるか。 ②協調性を持って、周囲と楽しく取り組もうとしているか。 ③技能や安全面など、適切な状況判断ができるか。④与えられた課題に対して、しっかりと技能を習得することができるか、また習得しようと努力しているか。⑤技能・ルール・安全・理論に対する知識理解を深めているか。 ※授業への取り組み+記録+目標設定への達成度

平成24年度 音楽Ⅰの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	音楽Ⅰ	単位数	2	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	改訂新版 高校生の音楽1				

2 学習目標

◎ 音楽の幅広い活動を通して，音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。〔要するに，音楽的な能力（楽器の演奏とか歌を歌うこととか音楽を聴くこととか）を高め，音楽好きな生徒を育てましょう！ということです。〕

3 学習方法

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く，積極的に音楽に取り組む，課題をきちんと提出する，これらのことを着実にこなせば，どんどん音楽の力はつきます。中学時代に音楽の授業が苦手，もしくは嫌いだった人もいます。歌が苦手，笛が苦手，音符読めないから嫌い……安心してください。本校の芸術の授業は音楽のみですので，様々な種類の音楽を行います。歌，リコーダー，鑑賞，楽典（音楽のルール）全てを初歩から行いますので，実技系が苦手な人は筆記系（楽典，鑑賞）を頑張れば大丈夫です。 初めからあきらめずに意欲的に取り組みましょう。 ② 演奏（歌唱）するにも鑑賞するにも「楽譜が読める」ことは重要な手がかりになります。楽譜を読めるように授業は進みますので，がんばりましょう。もちろん初歩の初歩から始めます。 ③ アルトリコーダーを使用しますので，必ず用意してください。 ④ 必要に応じて，実技テストと筆記テストを行います。実技テストは授業の中で，筆記テストは定期考査期間中に行います。実技テストが苦手な人は筆記テストを頑張る，筆記テストが苦手な人は実技テストを頑張る，両方苦手な人は，両方頑張るというようにすれば大丈夫です。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	歌唱	「少年時代」 「Believe」 「世界の一つだけの花」	・楽譜を読み，理解して，それぞれの楽曲の情景を思い浮かべながら表現（歌唱）できたか。
	器楽	「校歌」 リズム打ち，ボディーパーカッション 「風になりたい」	・校歌を覚え，歌えたか。 ・基本となる音の長さを理解したか。曲に合わせてリズムを打つことができたか。
	鑑賞	世界の諸民族の音楽	・それぞれの国の音楽の特徴や音楽文化を理解することができたか。
第2学期	器楽（リコーダー）	基礎練習，簡単な曲の練習	・楽譜を読み，理解し，楽曲を演奏できたか。 ・自分の役割を認識し，友人たちと表現を「合わせる」ことを楽しみ，主体的にアンサンブルできたか。
	鑑賞	オペラ，ミュージカルなど総合芸術の鑑賞。 「サウンド・オブ・ミュージック」 「ウェストサイドストーリー」	・総合芸術について理解を深め，鑑賞の結果，その音楽的印象を文章で表現し，共有できたか。

第 3 学 期	鑑賞	日本の伝統音楽 歌舞伎・能・狂言	・日本の伝統音楽について理解を 深め、鑑賞の結果、その音楽的印 象を文 章で表現し、共有できたか。
	器楽	リコーダーやギターなどを、 グループで演奏し、発表。	・自分の役割を認識し、友人たち と表現を「合わせる」ことを楽し み、主体的にアンサンブルできた か。

5 学習評価

音楽の成績を評価するときに、最も重視されるのは日々の授業に取り組む姿勢です。 音楽は体育同様「実技教科」です。日々の授業で身に付けた力を試すためにテストをします。（笛の練習を普段の授業で一生懸命やらなかったら、笛のテストで良い結果は残らないですね） 例えば、普段の授業で一生懸命苦手な笛の練習をしているけど、やっぱり笛は昔から苦手で、テストでは上手にできなかった、という人は、ちゃんと日々の努力を評価します。笛は得意だから普段の授業はサボっててもテストでは上手にできる、という人も、ちゃんと日々の努力を評価して、成績は悪くつきません。筆記関係も同じです。 もちろん、私語をしていたり、出歩いたり等の授業のルールを守れない人は、話になりません。評価の対象外（要するに1）になります。
--

平成24年度 英語Ⅰの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	英語Ⅰ	単位数	4	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	VISTA English Series I New Edition（三省堂）				

2 学習目標

◎ 日本語とはまったく異なる英語の世界を理解し，その魅力を味わうために以下の目標に沿って学習します。 ・基礎的な単語や熟語（「ボキャブラリ」といいます）を確実に覚えよう。 ・基本的な英文法をしっかりと身につけよう。 ・簡単な英語を使って，コミュニケーションに挑戦しよう。 ・外国の文化に興味や関心を持とう。

3 学習方法

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。電子辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば，どんどん英語の力はつきます。特に，中学時代に英語が苦手だった人は，初心に帰って「授業を大切に」から再出発しましょう。 ② 次の授業に備えての予習やその日に学習したことの復習は，英語学習に不可欠です。毎日机に向かい，教科書を開く。その習慣を身につけましょう。 ③ 定期考査の準備は，時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は，学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかり準備すれば高得点に結びつきます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」，このサイクルを手に入れましょう。
--

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	Get Ready 日常生活で見かける英単語と簡単な日常会話	アルファベットの発音と書き方を復習する。辞書の使い方と英単語の覚え方を確認する。基本的な日常会話の表現を身につける。	・アルファベットの大文字と小文字をきちんと読めて書けるか。 ・辞書を使って単語の意味を正確に調べられるか。 ・簡単な表現を用いたコミュニケーション活動ができたか。
	L1 Our Earth 地球における共生について考えよう。	be動詞・一般動詞の初歩的な用法と否定文の作り方について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・否定文への書き換えはできるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L2 Wetlands 環境破壊に対して自分たちに何ができるか考えよう。	疑問文の作り方と現在進行形の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・疑問文への書き換えはできるか。 ・また現在進行形を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Basic English	1. アルファベット 2. 代名詞 3. be動詞の用法	・アルファベットの大文字と小文字を正確に書くことができるか。 ・代名詞を意味の違いに応じて活用できるか。 ・主語や時制に対応して，be動詞の使い分けができるか。疑問文及び否定文への書き換えはできるか。

第 2 学 期	L3 Language in Malaysia 民族と言語について考えよう。	助動詞の用法とThere is への用法について理解する。	- 本文の内容は理解できたか。 - 助動詞を用いた表現とThere is ~ を使った表現ができるか。 - 新出言語材料は身についたか。
	L4 Wind, a new power 自然エネルギーの有用性について考えよう。	- 過去形の用法とその否定文 - 疑問文の作り方について理解する。 - that節の初歩的な用法について理解する。	- 本文の内容は理解できたか。 - 時制の考え方を理解したか。否定文や疑問文への書き換えはできるか。また「節」のはたらきについて理解できたか。 - 新出言語材料は身についたか。
	Basic English	4. 一般動詞の用法	- 主語や時制に対応して動詞を活用できるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 - 疑問詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。
		5. 疑問詞	
第 3 学 期		6. 進行形	現在進行形と過去進行形を用いた表現ができるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。
		7. 助動詞	いろいろな助動詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。
	L5 Women's Day and Teachers' Day ベトナムの学校行事について知ろう。	SVOOとSVOCの文型について理解する。	- 本文の内容は理解できたか。 「文型」の仕組みについて理解できたか。 - 新出言語材料は身についたか。
	L6 Trees, Rivers and the Sea 生態系について考えよう。	不定詞と形式主語の用法について理解する。	- 本文の内容は理解できたか。 - 不定詞の機能を理解できたか。また形式主語を用いた表現ができるか。 - 新出言語材料は身についたか。
	Basic English	7. 不定詞	不定詞の意味と用法を理解することができたか。
		8. 現在完了形	現在完了形の意味と用法を理解することができたか。
		9. 比較	意味の違いに応じて、適切に比較変化をさせることができるか。

5 学習評価

英語の成績を評価するときに、最も重視されるのは定期考査の結果です。君たちが年に5回実施される定期考査で何点を取るのか。それが大切であることはいうまでもありません。

しかし、テストの点数だけで成績が決まるわけではありません。私たちは、君たちの毎日の学習態度にも注目します。以下の項目が成績評価の重要な資料になります。要するに、普段の努力が大切ということです。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物

宿題や課題に着実に取り組んで、きちんと提出しましょう。

平成24年度 家庭総合のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	家庭総合	単位数	2	履修学年・区分	1 学年 (1・2 学年各 2 単位の分割履修)
使用する教科書	新家庭総合～ともに生きる くらしをつくる～ (教育図書)				
副教材等	なし				

2 学習目標

- ・身近な生活の中から課題を見い出し, 解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。
- ・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

3 学習方法

- ①教科書や補助資料から基礎的知識を学ぶ。
- ②調理実習や被服製作実習を通し, 基礎的技術を身につける。
- ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し, 科学的・理論的に学ぶ。
- ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考える。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	「家庭総合」の学習について (ホームプロジェクト) 《単元》くらしのなかの「衣」 ①衣生活を考えよう ②衣服の材料を知ろう ③衣服の選択と手入れ ④これからの衣生活と環境 ⑤衣服をつくろう (期末考査)	・学習の目標や内容, 具体的な学習方法を理解します。 《ねらい》 衣服の機能や着装, 材料などの基礎的な知識・技術の習得を目指し, 豊かな衣生活を営む。 《具体的活動》 ①講義・ディベート ②講義・燃焼実験 ③講義・調べ学習 カラーコーディネート実習 ④講義・ディベート ⑤エプロン製作実習	①衣生活を自分のこととして取り組むことができたか。 ②衣服の材料に関心を持ち, 特徴を理解できたか。 ③衣服の関心を衣生活全体の問題として取り組み, 衣服の選択と手入れの方法を具体的に理解できたか。 ④衣生活での環境問題に関心を持ち, 衣生活と環境の関係を生活で役立てようとしたか。 ⑤被服製作に意欲的に取り組み, 自分らしい表現を作品に表すことができたか。また, 基本的縫製技術を身につけられたか。 ・ワークノート ・実験記録
第2学期	《単元》くらしのなかの「住」 ①住まいについて考えよう ②住空間をデザインしよう ③快適な住まいについて考えよう ④これからの住生活と環境 (期末考査)	《ねらい》 住居に関する事象を科学的に理解させるとともに, 住生活の文化への関心, 必要な技術の習得を目指し, 豊かな住生活を営む。 《具体的活動》 ①講義 ②実習 ③ディベート	・作品 ・実習記録 (自己評価カード) ①住まいの機能や気候との関係, 歴史を理解できたか。 ②デザインを考え, 実生活に即した形で表現できたか。 ③快適な住まいとは何かを理解し, 快適さの追求を生活に生かそうとしたか。 ④環境に配慮した住まいの在り方を考えることに意欲的に取り組めたか。 ・ワークノート ・実習記録

平成24年度 情報A のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	情報A	単位数	2	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	情報A (東京書籍)				
副教材等	基礎からはじめる情報リテラシー (実教出版)				

2 学習目標

- ・アプリケーションソフト (マイクロソフトオフィス) の使い方をマスターします。
- ・著作権や肖像権など, 各種情報を取り扱う上での法規, マナー等を学習し, 身につけます。

3 学習方法

- ・副教材を使用して, リテラシー (基本能力) を身に付けます。授業は実習中心に行います。授業で行った課題を評価しますので, 授業にしっかり取り組むことが基本です。
- ・身につけたリテラシーをもとに, プレゼンテーションを行います。その際, 情報の収集, 発信, 活用に必要な法規とマナーも併せて学習します。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	パソコンの基本操作 マイクロソフトWord ・入力 of いろいろ ・体裁を整える ・図を挿入する ・表を作成する ・ビジュアルな文書を作成する	・マイクロソフト社の文書作成ソフトWordを使用し, 実習します	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。
第2学期	マイクロソフトExcel ・データを入力する ・計算をする ・体裁を整える ・グラフを作成する ・表を印刷する ・いろいろな関数を利用する ・Word文書への利用 ・データベース的に利用する マイクロソフトPowerPoint ・簡単なプレゼンテーションを作成する ・オブジェクトを挿入する ・Excelの利用	・マイクロソフト社の表計算ソフトExcelを使用し, 実習します。 ・マイクロソフト社のプレゼンテーションソフトPowerPointを使用し, 実習します。	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・提出された課題を評価します。
第3学期	・情報の収集 ・情報の蓄積と共有 ・情報の分析 ・情報の評価 ・情報の創造と表現 ・情報の発信と共有 ・情報の伝達	・インターネット, メディア等の様々な媒体から情報を収集する方法を学習します。 ・収集した情報を分析, 評価し, 活用する方法を学習します。 ・情報を創造し, 表現, 発信, 共有伝達する方法を学習します。 ・情報の収集, 蓄積共有, 分析評価, 創造, 表現, 発信, 共有, 伝達する際に留意すべき法規, マナーを学習します。	・基本的な授業態度は当然のこと, 授業に意欲的に取り組んでいるかを評価します。 ・学年末試験を実施します。

5 学習評価

情報の成績を評価する上で一番重要なことは, 授業に取り組む姿勢です。授業内で課題を作成し, 提出後, それを評価することが中心になりますので, 授業中意欲的に取り組むことが重要です。授業中サボっていて課題が終了しなかったり, 仕上がりが悪かったりすると, 当然低い評価になります。また, 3学期に学習したことを中心に, 学年末考査を実施しますので, 考査の出来具合も重要な評価になります。授業を大切に, 意欲的に取り組むよう頑張ってください。

第 3 学 期	《単元》くらしのなかの「消費」 ①私たちの生活と経済を知ろう ②家計から生活を考えよう ③消費者としての生活を知ろう ④自立した消費者になろう (期末考査) まとめと反省	《ねらい》 家庭の経済生活や消費者の権利・責任を理解させるとともに、現代の消費生活の課題を認識して、環境に配慮した適切な意志決定に基づいた消費行動をする態度を育成する。 《具体的活動》 ①講義 ②講義 ③ディベート ④グループでの調べ学習 《ねらい》 一年間の学習を振り返り、実生活に生かそうとする態度を育成する。また、2年生の学習の目標を決める。 《具体的活動》 ①一年間の反省・感想記入	①家庭の経済と国民経済の関係を理解できたか。 ②収支のバランスをみて家計を管理できたか。 ③消費生活の問題点を指摘し、お金に流されない豊かな消費生活に活かそうとしたか。 ④消費者問題に関心を持ち、消費者の権利と責任を理解できたか。 ・ワークノート ・VTR視聴記録 ①一年間の学習を反省することで、次年度の目標を立てることができたか。 ・作文 ・自己評価カード
------------------	--	--	---

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について 以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評価に総括します。 《評価の観点及び内容》 1 「関心・意欲・態度」 家庭や地域の生活に関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。 2 「思考・判断」 家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。 3 「技能・表現」 家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。 4 「知識・理解」 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。 (2) 評価方法について 具体的な評価方法として以下の三つの項目を数値化し、五段階で評価します。 1 「定期考査」 各学期末、計3回実施。(70%) 2 「提出物」 ノート、自己評価カード、作品、(20%) 3 「授業態度」 主体的・意欲的な取り組みが見られたか。(10%)	
--	--